



菊池川流域

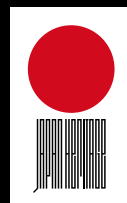
米作り、二千年にわたる大地の記憶

シリーズ日本遺産 ⑬

菊池川流域「今昔『水稻』物語」

問い合わせ先
生涯学習課
社会教育係

☎ 0968(25)7232



菊池川 日本遺産 検索



①阿佐古かせいどりうち



五穀豊穰を祈るまつり ①

菊池川流域では、米の豊作を祈ってさまざまなお祭りや風習が受け継がれています。

阿佐古かせいどりうち

毎年1月14日の夜、山鹿市北東の山あいにある菊鹿町阿佐古地区で行われる行事です。「かせいどり」とは長さ70センチほどのしめ縄に粟の穂を挿した作り物です。

当日の夕方、地区の子どもたちが地元の乙皇神社に集まると、顔を墨で真っ黒に塗りつぶし、かせいどりを持って各家庭を回ります。子どもたちは玄関の戸を開けると「かせいどり、どっさりお祝いな」と大きな声を発し、かせいどりで上がり框を叩くのが習わしです。家の人は子どもたちにお菓子やお餅を渡すと、そのお返しに小さなかせいどり

をもらいます。かせいどりは家内安全と一年の豊作を祈り、神棚に供えられます。

この行事は数百年続くといわれていますが、その由来などはよく分かっていません。現在は子どもが少なくなり、伝承が難しくなっているようですが、地域の子どもと大人が一緒になって守り続けられています。

長坂なれなれなすび踊り

毎年3月の上旬に、山鹿市の中ほどにある長坂地区の厳島神社例大祭で奉納される、五穀豊穰を祈った踊りです。

祭り当日、踊り手たちが午後8時頃から集まって、しばらくお酒を酌み交わした後、10時頃から踊りが始まります。踊り手6人と、ドラ打ち4人、歌い手10人の合計20人が、神

社境内の舞殿で踊りを奉納します。

踊り手は非常に素朴な衣装（白い麻の狩衣）を身にまとい、蓑笠を烏帽子のように被ります。そして、大太鼓の周りを取り囲んで、唄と太鼓に合わせて輪になり、約20分間踊り続けます。神社での踊りを終えると、そこから東へ約500メートル離れた「稔之神」という場所へ移動して、再び同

じ踊りを奉納すると行事は終了です。

その歴史は大変古く、中世（鎌倉時代から室町時代）までさかのぼるといわれています。起源には諸説ありますが、念仏踊りや盆踊りから始まったものとされています。

（担当：山鹿市社会教育課）



②長坂なれなれなすび踊り

